

## 保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人真澄児童福祉会
施設名	佐助保育園
報告者（役職）	押田 壮介（ 園長 ）
住所・連絡先	神奈川県鎌倉市佐助1-13-6
	☎ 0467-40-4040
	E-mail sasuke@masumijidou.jp

○タイトル（保育計画）

ぼうけんのたびにしゅっぱつ！！

○主な助成備品

雲梯、テント、遊具

### 1. 保育計画策定の目的

当園が保育をする上で何よりも大事にしていることは「生きる力」を育める環境を大切にすることです。生きる力を人間が生きていく上での「すべての力の原点」と捉え、その「生きる力」は「遊び」から育まれると考えています。

子どもたちは遊びから感じられる楽しい気持ちの中で好奇心、集中力、理解力、行動力、想像力、表現力などに会います。その様々な気持ちこそ生きる力であるとの考えから、子どもたちに教え込むのではなく、子ども自身が主体的に様々な学びをして自分からその気持ちを見つけてほしいと思い、遊びを保育の中心とした園方針としています。

子どもたちは何もない中からでも想像をどんどんと膨らませ、遊びを深めていくことができますが、遊具などを用いた環境を整えることで、遊びの世界がもっと膨らむきっかけとなり遊びが充実すること、また、身体を十分に使うことで、さらに身体能力の向上にも繋がっていくことへの考えから今回の保育計画を策定しました。

### 2. 具体的な実施内容

《雲梯》身体活動の充実・身体能力の向上

ぶら下がるだけではなく、少し高低差があることで高いところから低いところ、またはその逆など難易度を変えることができます。また、色分けをしてあることで「今日は赤の所まで行ってみよう」「今日はピンクの所



までできた！」など自分で目標を決めて意欲を持って取り組む姿が見られます。さらに、自分で達成度を測ることができることで、各個人にあった充実感や大きな達成感が得られます。達成度に個人での違いはありますが、同じ遊具に友だちと取り組むことで、応援しようとする気持ちや友だちと競争しようとする気持ちなども感じられます。

#### 《テント》

日中の強い日差しから子どもたちを守り、屋外でありながら涼しく過ごすことができます。

鬼ごっこの基地、ドロケイの泥棒役が入る場所など遊びの起点の場所となっています。



#### 《ベイビードラゴン・リスコ》

子どもたちを想像の世界へと連れて行く、時にはペットのような、時には乗り物のような存在となります。

運動遊びにおいて、タッチする場所や周りをまわってなどの目印にもなります。また、2匹を起点に、それぞれのチームに分かれ様々なゲーム遊びをします。



### 3. その成果と評価

#### 《雲梯》

身体能力の向上

個々に応じた難易度が得られるため取り組みやすく、幼児クラスのいずれの年齢においても集中して続ける姿が見られました。幼児クラスはチャレンジカードを作成することで、友だちと競争をしたり、自分から取り組む姿が多く見られ、より充実感、達成感を味わうことができました。また、順番や進む方向などの約束事を自分たちで決めるなど話し合いの場にも用いられました。

#### 《テント》

涼しく安全に過ごせることで、乳児も屋外の風を感じながら落ち着いて過ごす憩いの場所となりました。幼児クラスにおいては休憩場所としても活用でき、熱中症の予防に大きく貢献しました。

遊びの使用においては、当初は保育者が様々な設定をして遊びの環境を提供する場面もありましたが、しばらくすると自分たちでいろいろな設定やルールを決めるなど、遊びを

広げるきっかけとして利用する姿が多く見られるようになり、しばらくするとお城や大きな家に見立てて、想像力を膨らませて遊ぶ姿も見られました。

#### 《ベイビードラゴン・リスコ》

予想以上に想像を膨らませている姿が見られました。こっそりと名前を付けたり、園庭の隅にある花や葉をごはんとしてあげたり、頭をなでていたり、かわいい様子がたくさん見られます。友だちと一緒に背中にのり冒険の旅に出ている姿には、保育者も見ていただけで嬉しくなりました。

全体を組み合わせでのサーキット遊びを行いました。

チームに分かれ、テントをスタートとし、雲梯を渡り、動物にタッチし、テントに戻るなど様々なパターンを組み合わせで行うことで楽しんで行うことができました。また、子どもたちが自分たちで想像し、キャラクターになりきってそれぞれの場所を周って遊ぶなどの姿が見られました。

子どもたちが主体的に、充実した活動を行えることで様々な気持ちを感じることができました。身体能力の向上に大きく繋がっています。

#### 4. 今後の課題と展望

サーキット遊びや雲梯などの利用において、子どもたちの主体性、自主的に取り組もうとする意欲を大切にしていますが、個人差が生じてしまう部分も見られました。今後は、個々の状況に合わせながらも、発達状況を見ながら自分から意欲的に取り組めるような意図的な配置やチャレンジカードなどの環境の設定を行っていく必要性も感じます。

想像を膨らませる力を保育者が狭めることのないように、想像を大きく広げられるような意図を持った環境設定を行うことで、より多くの遊び方の構築や劇遊びなどへの発展も十分に考えられます。子どもたちが充実して取り組んでいけるような環境を考え、取り組んでいきたいと考えています。

以上